

## 母親が育児を楽しむための父親の役割、 その他の因子の検討

森田 英雄<sup>1)</sup>，浜田 文彦<sup>1)</sup>，倉繁 隆信<sup>1)</sup>  
奥原 義保<sup>2)</sup>，北添 康弘<sup>2)</sup>

要約：母親が育児に喜びを感じ、楽しく行うには、どのような条件が必要であるのか検討した。父親の役割としては、育児を単純に介助するだけでなく、育児についての語り合いが必要であること、母親の幼児期の体験も重要で、幼児期に抱かれた記憶、添寝の記憶のない母親は育児を負担に感じることが多かった。これらの母親は育児についての父親との語り合いも少なく、このことが関与している可能性もある。

見出し語：母親の育児感、父親の役割、母親の幼児体験

### 【研究方法】

高知県赤ちゃん審査会に参加した、生後3ヶ月から1歳6ヶ月までの乳幼児の母親に、アンケート調査を行った。1991年度の有効回答数は1578例で、回収率は96%であった。

統計処理はPearson Chisquareで行った。本文中の育児感は、母親の育児についての感情を表わす言葉として用いた。

### 【結果】

#### 1. 母親の育児感の推移

育児が楽しいと回答した母親は1982年82%、1991年38%であり、育児に楽しさを感じる母親が減少していた(図1)。

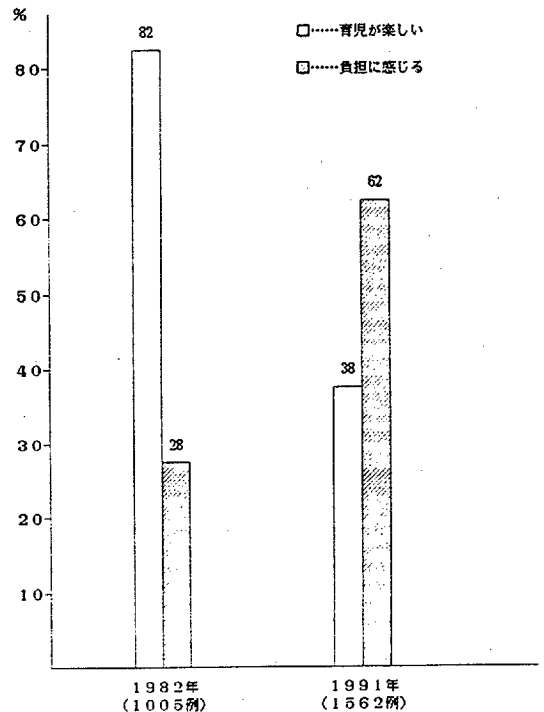


図1. 母親の育児感の推移

<sup>1)</sup> 高知医科大学小児科

<sup>2)</sup> 高知医科大学情報センター

## 2. 父親の育児介助と母親の育児感

父親の育児介入時間の長短、介助する事柄と母親の育児感に差はなかった(図2、3)。

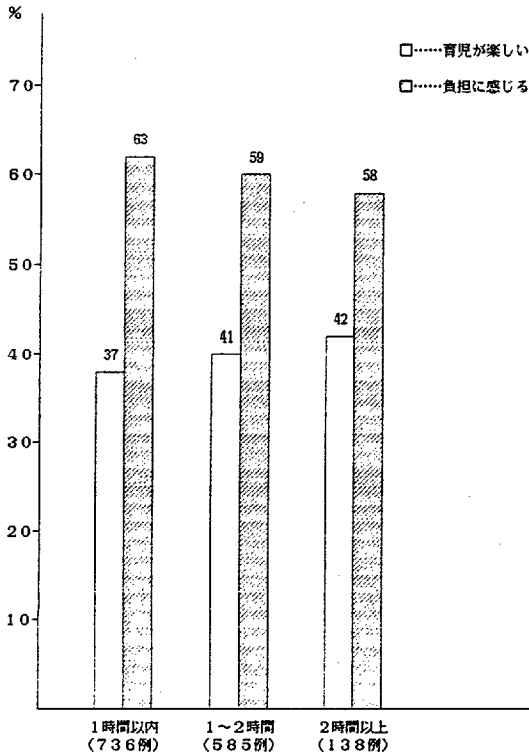


図2. 父親の育児介助時間と母親の育児感

育児について父親と語り合う頻度が少ないと、育児を楽しんでいる母親が少なく、負担を感じる母親が多かった(図4、 $P < 0.05$ )。

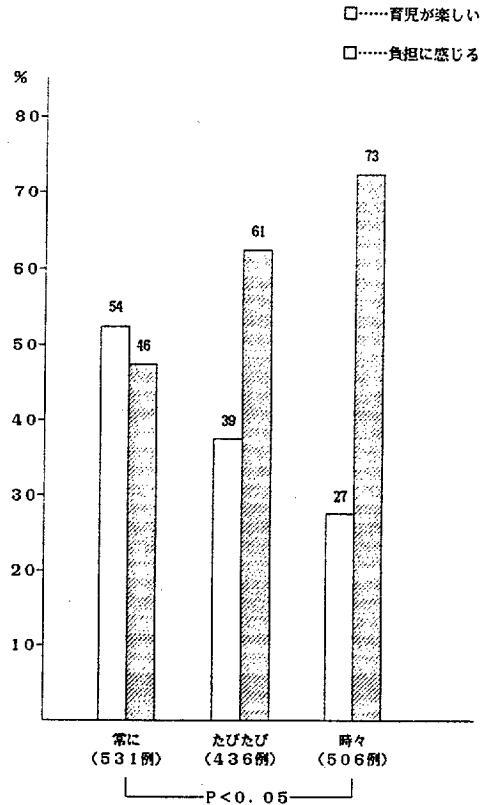


図4. 育児について父親との語り合いと育児感

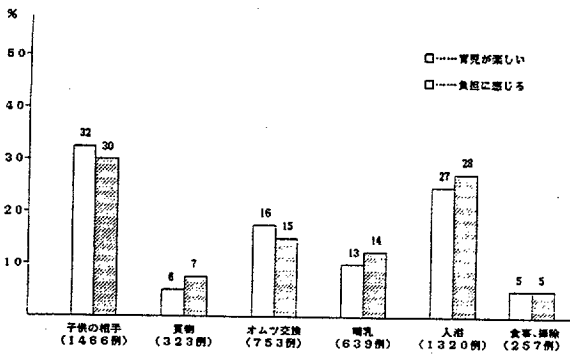


図3. 父親が協力する事柄と母親の育児感 (複数回答を含む)

## 3. 母親の幼児期の体験と育児感

母親が幼児期に抱かれた記憶、添寝の記憶がない場合に、育児を楽しんでいる回答した者が少なく、育児を負担に感じている母親が多かった(図5、 $P < 0.05$ )。

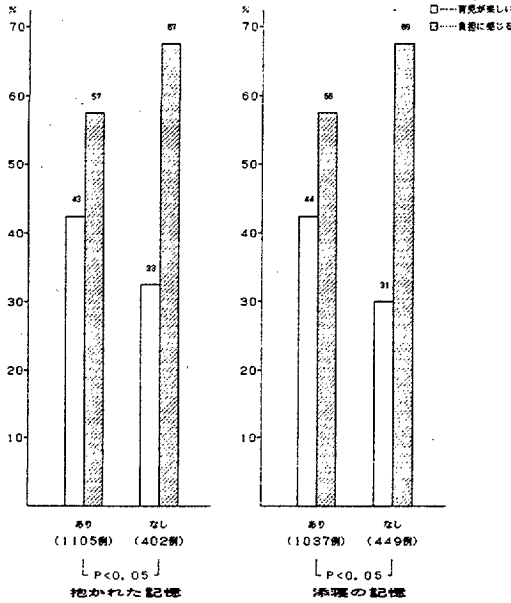


図5. 母親の幼児期の体験と育児感

#### 4. 母親の幼児期体験の推移

幼児期に抱かれた記憶ありと回答した母親は1981年37%、1991年74%であり、抱かれた記憶のある母親が増加していた(図6)。

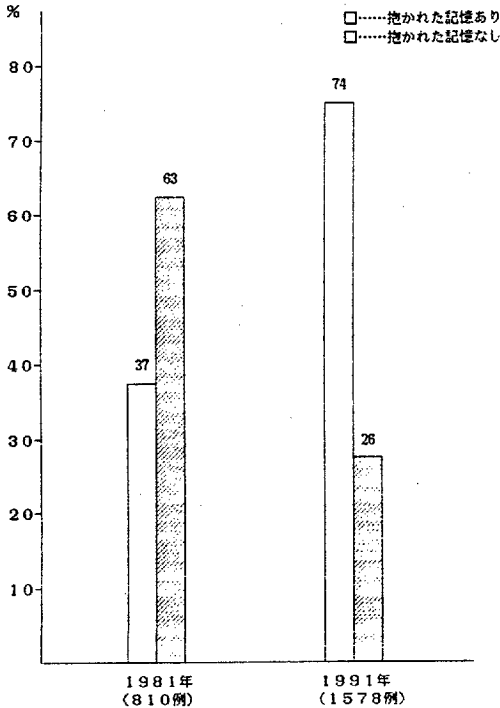


図6. 母親の幼児期体験の推移

#### 5. 母親の幼児期体験と育児について父親との語り合い

母親が幼児期に抱かれた記憶、添寝の記憶がない場合に、育児について語り合う頻度が少ない母親が多かった(図7、 $P < 0.05$ )。

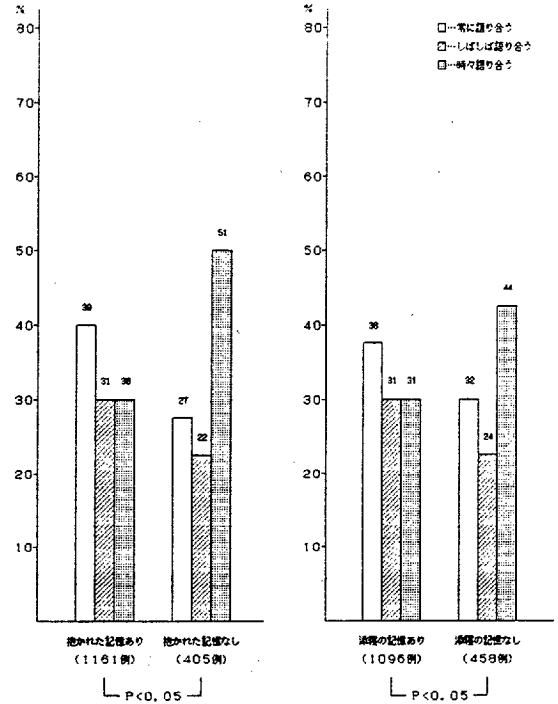


図7. 母親の幼児期の体験と育児についての父親との語り合い

#### 【考察】

母親が楽しく育児をするためには、父親の育児協力時間を長くすればよいというものではなく、育児についての父親との語り合いが重要であった。このことから、育児中の母親は父親との語り合いのなかに精神的なささえなどを求めている可能性があるものと思われた。この点については今後明らかにする必要がある。

母親が育児を楽しく行うための他の要因として、幼児期の体験も重要であることを示唆する結果も得られたが、幼児期に母親に抱かれた記

憶、添寝の記憶がない場合に、父親と育児についての語りあいも少なかった。そこで、幼児期に母親に抱かれた記憶、添寝の記憶のない母親の育児感には、父親と育児について語り合いが少ないことが影響している可能性もある。そして、幼児期の体験が父親と育児についての語り合いに影響を及ぼしている可能性もあると思われる。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母親が育児に喜びを感じ、楽しく行うには、どのような条件が必要であるのか検討した。父親の役割としては、育児を単純に介助するだけでなく、育児についての語り合いが必要であること、母親の幼児期の体験も重要で、幼児期に抱かれた記憶、添寝の記憶のない母親は育児を負担に感じるが多かった。これらの母親は育児についての父親との語り合いも少なく、このことが関与している可能性もある。